

私立高等学校の設置認可に関する基準の一部改正(案)に対して提出された御意見と県の考え方について

※いただいた御意見について、趣旨を損なわない範囲で要約し、取りまとめさせていただきました。

No.	御意見	県の考え方
1	<p>少子化が進んでいるにも関わらず、我が国では小中学生の不登校が過去最高を記録していることを見ても、既存の学校教育と現場のニーズとの間に、大きなギャップが生まれつつあるのは明らかである。</p> <p>私学こそが、このギャップを埋める役割を担うべきであり、少子化の最中でも、新設校を抑制することには慎重になるべきと考える。</p> <p>既存の学校が変われず、不登校が増え続けるのであれば、私学を新設することでしか、彼ら彼女らが本当に輝ける社会は実現できないのではないか。</p> <p>少子化傾向にあっても、生徒や保護者のニーズを捉えた私学については、新設をお認めいただけるよう、お願いしたい。</p>	<p>中学校卒業生数が減少していく中、公立私立による高等学校の適正配置などを考慮し改正を行う一方で、経営に支障がなく、社会的ニーズを捉え、本県の教育条件の向上に資する場合は新設を妨げるものではありません。</p>